

栃尾表町住民と新潟大学工学部建設学科学生との協働による まちづくり

正会員 西村伸也君
正会員 岩佐明彦君

本プログラムは、大学の教育科目を活用して、学生と住民との協働によるまちづくりを実践的に進め、具体的に地域固有の雁木の回廊を継ぎ直し、まちなみ景観の継承を目的としたものである。

西村伸也君と岩佐明彦君は、建築計画演習科目を積極的に活用して、まちづくりを学生に実際に体験させる特色ある教育的試行を12年間続けてきた。

学生全員が、コンセプトの構築から、住民との検討や対応、デザイン、プレゼンテーション、地場産材料の選択や伝統的工法の継承、ディテールの工夫、建設といった一連の実践的経験を通して、実際にまちづくりやものづくりに深く関わる機会を得ていることは、本プログラムの最も特徴的な点である。

さらに、プロセス全体に住民との協働がしっかりと組み込まれている点、まちの景観を形成する屋号看板や雁木などの景観要素を学生自ら造りあげている点、実施案では住民投票による意思決定を最優先し、従来からの持続的なまちづくりの仕組みを継承保全している点、大学のみならず地元の建築家・大工職人・工務店・森林組合・官庁など多くの専門家の協力・協働を得ている点、小学校などの総合学習との連関など、実践的な建築教育プログラムとして高く評価される。

また、密度の高い時間と手間をかけるまちづくりへの関与が、建築教育の新しい力となるといった両君の信念とその実現プロセス、持続的な活動や運営の仕組み、活動財源の確保など、多くの課題をマネジメントしてきた両君の姿勢は、建築教育手法の今後の方向性や可能性を示した点で評価される。

よって、ここに日本建築学会教育賞（教育貢献）を贈るものである。